

特集

気になる!

あたらしい 学びのカタチ

文部科学省が打ち出した「GIGA スクール構想」。この構想を実現するための取組みのひとつとして、令和2年末、町では町内小中学校に通う児童生徒を対象に、1人1台のタブレットを導入しました。タブレットが導入されたことで、変わりつつある授業。児童生徒や学校関係者のほかには、今どのように授業が行われているのか知る機会はほとんどないと思います。そこで、タブレットが貸与されて約1年たった学校の「今」の様子を、学びのカタチとして紹介します。

●編集 広報情報課

ギガ
GIGA 文部科学省の取組み
スクール構想とは？

Global and Innovation
Gateway for All の略

意味：全ての児童・生徒のための
世界につながる革新的な扉

特別な支援を必要とする子どもを含め、子どもたち1人ひとりの個性に合わせた教育の実現と、教育実践の蓄積とICTをかけあわせて、教師と生徒の力を最大限に引き出すことを目的としている。

ICTとは？

Information and Communication
Technology の略

意味：情報通信技術のこと

IT（情報技術）にコミュニケーション（通信・伝達）の要素を含めたものが「ICT」。情報技術だけでなく、インターネット、SNS、メールなどの通信技術を活用する方法も含めた総称。

インターネットの検索エンジン
を使い、自分で調べ理解を深める



調
べる

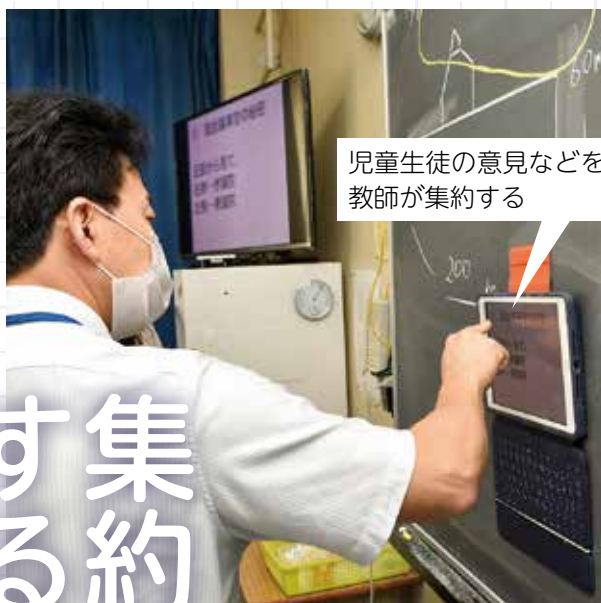
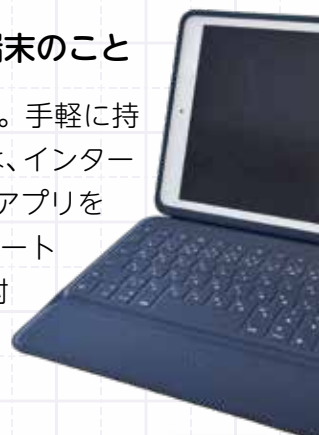
タブレットの
活躍の場はさまざま

タブレット



意味：
板状のコンピューター端末のこと

画面を直接触って操作する。手軽に持ち運ぶことも可能。学校では、インターネットにアクセスしたり、アプリを導入したりして学習をサポートしている。セキュリティ対策がとられ安全面にも配慮している。



児童生徒の意見などを
教師が集約する

集
約
す
る



カメラの機能を使い実験などの
様子を撮影、分析・考察に生かす

撮
る



1人ひとりの意見などを、
クラス全員で共有する

共
有
す
る



自分の意見などをタブレット
に入力して提出

意
見
を
出
す

今、タブレットで変わったこと 走り出したICT

今 Change タブレット

「GIGA スクール構想」に沿って、導入されたタブレット。

授業では、令和3年1月から活用が始まりました。

これを機に ICT 教育はさらに前進し、ICT は子どもにとってより身近な存在となりました。

タブレットが導入された今、教育現場にはどのような変化がみられるのでしょうか？

今と昔とでは、学校や子どもたちの様子はすっかり変わっているかもしれません。

「今、タブレットで変わったこと」をキーワードに、学校の今をのぞいてみましょう！

チェックポイント

01

授業風景は
どのように変わった？

チェックポイント

02

子どもに与える
影響はどんなもの？

チェックポイント

03

先生にとっての
変化って？

今、
タブレットで
変わったこと

授業は全員参加の気持ちで



- ・タブレットにダウンロードされた授業支援クラウド(共有アプリ)に、全員が自分の考えを入力するため、すべての意見が共有される。
- ・クラスメイトの意見や考え方を尊重し合う。

子どもの主体性が高まる



- ・インターネットにアクセスして、必要な情報を自分で探し選択する。
- ・1人ひとりが考えをまとめ「自分はこう思う！」を導き出す。

タブレットおよびインターネット環境の整備は、国の補助金を活用して実施しました。



タブレット
導入までの道のりと、
これからを語る

ICT 推進部会担当校長
北部中学校 校長
延永 保二先生

Q ICT 推進部会って何ですか？

A 町内小中学校の教職員、役場学校教育課を始めとする町の職員で構成される部会です。令和2年度は、タブレットの導入に向けて学校と町が一丸となり活動しました。

Q タブレットを1人1台貸与するため、どのような準備をしましたか？

A 機器の選定やインターネット環境を整えることはもちろん、学校内の運用ルールや授業での活用方法を検討しました。ほかにも、セキュリティ対策としてパスワードなどの安全な管理方法、トラブルが起きた場合の対応方法を考えることも必要でした。

Q タブレット導入後、子どもの様子に変化はありますか？

A 動画や画像を活用することで学習へのモチベーションが上がったり、授業の幅が広がったりするなどの効果はありますが、課題もあると感じています。

Q 課題とは何ですか？

A わからないことがあっても、タブレットを使えばすぐに答えは手に入ります。便利ではありますが、子どもたちの想像力は低下し問題を解決する力が育たないことが心配されます。タブレットをどんな場面でどのように活用していくことが効果的なのか、各教科で検証しているところです。

Q ICT 教育はどのように進化していきますか？

A ICT 機器が進化するスピードはすさまじく、10年先は見通しが立ちません。しかし、変化を前向きに受け止め、学校と役場が連携をとって対応していくことが大切だと考えます。

個々の学習状況がひと目でわかる



- ・授業中、授業支援クラウド内の提出ボックスに課題を提出させることで、先生は1人ひとりの学習状況を把握できる。
- ・1人ひとりの理解度に合わせた指導ができる。

情報モラルを学ぶ

スマートフォンやSNS が子どもたちにも急速に普及しました。そこで、情報を正しく安全に利用するためなどの情報モラルを身につけさせることが、ますます重要とされています。情報社会の発展により生活は便利になりますが、情報化により起こりうる問題などを正しく理解し、適正に行動することが必要です。

小中学校で学ぶ情報モラル

●小学校

個人情報保護、人権侵害の防止、危険を回避するためのネットワーク上のルールやマナー など

●中学校

著作権や知的財産を保護する必要性、情報発信により発生する可能性のある問題、発信者としての責任 など

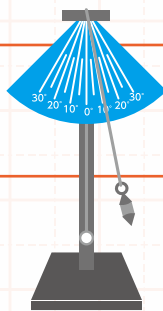
石浜西小学校に潜入! 実際の授業を 見てみた!

小学校の授業では、
タブレットをどのように
活用しているのでしょうか。
自分が受けてきた
授業を思い出しながら、
違いを見つけてみてください!!

5年生 理科 「ふりこ」の授業を見てみた!

テーマ

ふりこを1秒間で1往復させるには、
ヒモの長さを何センチにすればよいか検証します。



1

実験を行う前に、ふりこのヒモの長さを
予想します。予想した長さをタブレット
に入力し、提出ボックスに提出。提出さ
れた予想は先生が集約し、一覧にしてタ
ブレットの画面に映し出します。クラス
メイトの予想も踏まえて、いざ、実験!



2



タブレットのストップウォッチ
機能で時間を計り、実験の
様子は動画で撮影します。撮
影した動画を見てヒモの長さ
を検証します。

タブレットを
使ってみて

天木 結恵さん
(6年生)



ポイント!

「0cmは1秒を超えてし
まうから、次は0cmに
しよう!」と、話し合っ
たりアドバイスしたり
しながら、自分たちで
答えを導き出していま
した。

3



ヒモの長さを調整して、1往復
が1秒になるまで再度実験!

タブレットを使うようになって変
わったことは、今まで知ることが
できなかった意見を聞くことがで
きるようになったことです。一部
のクラスメイトの意見だけでなく、
皆の意見が見えることで「この意
見いいね!」などの会話も増えま
した。

6年生 算数

「およその大きさを求めよう」の授業を見てみた！

テーマ

身近なものを撮影し、
およその大きさ(面積)を求めることに挑戦します。

1



テープ、黒板、消しゴムなど
身近にあるもので、大きさを
求めてみたいものを探します。
選んだものをタブレットのカ
メラ機能で撮影します。

ポイント！

タブレットを使って共
有することで、クラス
メイトが工夫した計算
方法を見ることができ、
新たな求め方を発見で
きます。

2

撮影したものの写真をタブレットの
画面に映し出し、計算方法を画面に
書き込みます。答えが出たら、どの
ように大きさを求めたのかを、写真
とともにクラス全員で共有します。



タブレットを
使ってみて



小笠原 陸斗さん
(6年生)

タブレットを使うようになって授
業がより楽しくなりました。タブ
レットを使う授業では友達と協力
する力が身についたり、クラス皆
の意見が見えることで新しい発見
をしたりするようになりました。
授業内容もタブレットを使うこと
でわかりやすくなったと思います。

テーマ

努力



ポイント！

意見が共有されること
で、今まで手を挙げて発
言することをためらっ
ていたクラスメイトの
意見も知ることができ
ます。様々な意見に触れ
ることで、違う視点から
学ぶこともできます。

児童1人ひとり違った意見や考え方を
持っています。教科書を読んで、自分の
意見や感じたことをタブレットに入力しま
す。これを先生が集約し、クラス全員に
共有します。児童は様々な意見に触れる
ことで、違った視点があると知ることが
できます。子どもたち同士で話し合っ
たり、教え合ったりもします。

中学校でのタブレットの活用事例を紹介します。小学校との違いはどんなところでしょうか？今の授業風景を想像してみましょう！

北部中学校に潜入！ 実際の授業を見てみた！

2年生 英語

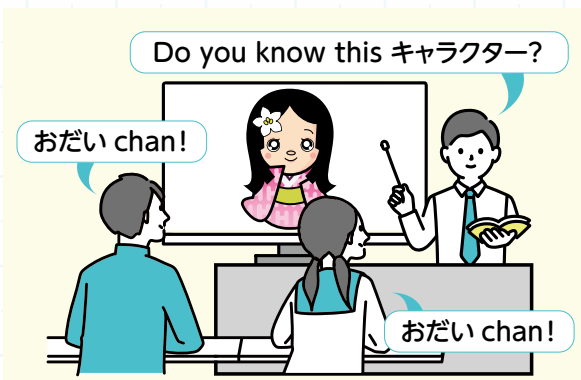
「よりよい発音を目指そう」の授業を見てみた！

1 シャドーイングからスタート！

タブレットに繋いだイヤホンを耳に当て、聞こえてきた英語の音声をすぐに復唱するシャドーイング。タブレットを使って各自で取り組みます。シャドーイングした音声は手持ちのマイクを使って録音し、提出ボックスに音声データを提出します。



2



スピーキングトレーニング

英語の反射神経を鍛えるため、先生が出す質問に2～3秒で答える練習を行います。このときも音声はタブレットを使って各自録音し、提出ボックスに提出します。早く質問に答えようと生徒たちは一生懸命！この日は、教室正面のスクリーンに「おだいちゃん」のイラストが映し出され「Do you know this character?(このキャラクターを知っている?)」などと質問されていました。

3

英文の作成練習でフィニッシュ！

決められた単語を使って、各自で英作文に挑戦します。タブレットを使ってインターネットで文法を調べること、翻訳機能を使うこともOK！完成した英作文は、提出ボックスに提出します。



ポイント！

インターネットを使う調べ学習が認められ、自分の力で調べ、考え、完成させるという授業が行われていました。生徒1人ひとりが真剣に課題に向き合う姿が印象的でした。

3年生 理科

昼間の教室で天体観測 「月の動き・満ち欠けを調べる」の授業を見てみた！

ポイント！

アプリとタブレットを活用することにより夜間には観測できない天体を、昼間の教室で、実際の空を見る感覚で、クラスメイトと一緒に学ぶことができます！



タブレットに入っている天体学習のアプリを使って学びます。タブレットが方角を認識し、タブレットが向く方向の天体を画面に映し出します。生徒たちは東西南北にタブレットの向きを変えて、天体を学習します。



タブレットを
使ってみて

A

加藤 優空さん
(3年生)



授業を「聞くこと」に集中できるようになりました。以前は板書された内容をノートに書き写すことに集中していましたが、今は板書の内容がデータ化されタブレットで見られるようになったことが理由です。

もともとパソコンやタブレットを使うことが好きなので、タブレットが導入されてより授業が楽しくなりました。

先生が話しをしているときには、タブレットを操作しないよう心がけています。大事な話を聞き逃さないよう気をつけたいです。

つついネットゲームで遊びたくなくなってしまう。遊びたい気持ちと葛藤し、今はだめだ！と自分に言い聞かせます。

Q

授業でタブレットを活用することについて、
どう思う？

Q

授業への取り組み方は
変わった？

Q

タブレットを使う際に
気を付けていることは？

Q

タブレットの活用が
始まって大変なことは？

教科書に難しい言葉が載っている場合でも、すぐにタブレットを使って調べられるので助かります。また、一部のクラスメイトだけでなく、クラス全員の意見を知ることができる仕組み(共有アプリ)ができたのがよかったです。

板書の内容などがデータとして残る安心感があります。先生の話により集中できるようになりました。

ネットゲームなど、私用な目的では使わないよう注意しています。

使い方を間違えないようにしなければと思います。ゲームなどで遊ぶための道具ではなく、授業のために正しく使いたいです。

タブレットが導入された今 先生に 聞いてみた!

対 談

タブレットを使った授業のありかたを
模索しているのは先生たち。

初めてのことに戸惑いを感じることや
タブレットが導入されて変化はあったのでしょうか。
現場の声を対談形式で聞いてみました。



タブレットは授業で
どのように活用していますか？

藤本

5年生は朝、自分で保管庫からタブレットを持ってきて、その日の連絡事項をタブレットで確認することが日課です。授業で1番活用しているのは体育の授業。例えば、マット運動で前転を行うときは、動画を撮り、おへそを見るや足を閉じるなどのポイントができているかを振り返ります。



児童は自分で改善点を見つけてられます。また、先生は授業中に見ることができなかった前転の様子を後から確認し、アドバイスをすることができるようになりました。

柴田

小テスト、資料提示、グループ活動などをタブレットで行っており、授業になくはならないものです。例えば、小テストではすぐに生徒の回答状況や正答率も確認することができ、その場で正答率の低い問題の解説をすることができます。また、資料の提示も、今までは一つのテレビ画面をみんなで見ながら説明をしていましたが、タブレットが導入されたことにより、資料を自分の手元で見ることが可能になりました。

板垣

小学校低学年はタブレットに慣れさせることも大切ですが、手書きでノートに書くということを、より大切にしています。

タブレット活用による
変化や効率化は？

板垣

タブレットが導入された当初は、カメラなどのタブレット自体に付属している機能が主なタブレットの活用用途でした。9月に新



たに町内小中学校に授業支援クラウドのアプリが導入されてからは「共有」することが簡単にできるようになり、授業の多くの場面でタブレットを活用できるようになりました。

原

あとは、時間短縮にも貢献しています。特に、1学年分のプリントを印刷する作業。これは結構手間で大変です。タブレットにより、印刷が不要になったのに加えて、タブレット上で補足を直接書き込み、共有することもできるようになりました。

柴田

ペーパーレス化もしましたね。タブレットにより授業などの効率もよくなりました。また、生徒は資料などでわからない言葉が出てくると、何も言わなくても自主的に調べています。疑問点をその場で解決することとは気軽にできるようになったと感じます。



石浜西小学校

板垣 昭吉先生

3年生担任

石浜西小学校

藤本 沙樹先生

5年生担任

北部中学校

原 拓哉先生

3年生担任 数学科

北部中学校

柴田 俊範先生

3年生担当 社会科

タブレットが導入されて苦勞していること

板垣 タブレットが導入された当初は、どのように授業に活用すればよいかかわからず「どうやって活用すればいいの...?」という状況で苦勞しました。

全員 そんな感じでした(笑)
板垣 しかし、授業支援クラウドが導入されたことで「こんなこともできるんだ」と活用場面や方法が徐々にわかってきました。授業支援クラウドの操作や活用方法などは、先生同士で情報交換しています。

原 確かに、タブレットが導入された当初は苦勞しましたが、今では使うところと使わないところの見極めができるようになってきたので、苦勞する場面は減りましたね。



タブレットを活用する中で感じる課題

板垣 もっと考えさせたほうがよい場面でも、タブレットを使うと、すぐに次に進んでしまうことがあります。タブレットを授業のどの場面で活用するかを定期的に見直すことも必要かもしれません。

藤本 調べることは大事ですが、調べただけで満足していると感じることがあります。調べたことを書き写すだけではなく、自分の考えをまとめることが必要なの...。そこを、私たち先生が気づいて「自分はどう考えたの?」と声をかけていく必要があると思います。

原 タブレットありきの授業になっていると感じることがあります。タブレットをどう上手に使うかが中心になってしまつて、先生自身の授業を行う力が疎かになってしまつのではという心配があります。タブレットをどう活用するかだ

けではなく、先生の授業力自体の向上も必要ではないでしょうか。



ICT教育への期待

柴田 タブレットが導入されて約1年。たつた1年しかたつていませんが、すでにタブレットが授業の必需品になっています。タブレットを活用した授業が今後なくなるとしたら、児童生徒も戸惑うと思います。それほど、欠かせない存在です。今後はさらに、活用方法を検討・改善し、タブレットを使用することができるようになればよいと思っています。